

## 令和5年度名取市自死対策協議会 会議録報告書

<日 時>令和5年10月12日(木)午後7時から午後8時30分まで

<場 所>名取市保健センター 2階 会議室

<出席者>

委員：齋藤会長、相澤副会長、中村委員、渡部委員、内田委員、橋浦委員、奈尾委員、川村委員、村岡委員、渡邊委員、紙谷委員、中嶋委員

事務局：安倍部長、安部所長、矢澤保健師長兼成人保健係長、佐藤技術主幹、伊藤技術主査、阿部保健師、武藤保健師

傍聴人：0人

<概 要>

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 委員自己紹介と職員紹介
- 4 議事

### (1) 報告事項

- ①名取市自死対策計画の最終評価について(資料1)
- ②名取市地域自殺実態プロファイルについて(資料2)

事務局の報告への質問：特になし

### (2) 協議事項

- 名取市自死対策計画(第2次)について(資料3)

#### ○委員

基本的には病院に来る方は病気である場合がほとんどで、病気であっても、受診しない、繋がらないというところが一つ大きな部分と思う。高齢者や特に生活困窮者は経済的に来られないことが多いので、そのような場合にも病院に繋がるような対応があるといいと思う。

ゲートキーパーはそういった部分に気づいて早めに病院に来ていただくようにするために大変重要と思う。生活保護や自立支援などを知らないという方にも伝えて欲しい。病気についてだけでなく、どういった支援があるのかというところを少し広げていくというところも必要と思う。

#### ○委員

弁護士の立場で、大変だ・危ないなと思う方に出会うことはあるが、中には弁護士に相談する所まで辿りつかない方もいる。自分の抱えている問題が弁護士に相談すれば解決できるかもしれないというところが分からないまま、1人で悩んでいる方がいると思うので、繋げてもらいたいと思う。プロファイルにも記載のあるパワハラや借金などは弁護士に相談すれば解決する可能性がある問題であると思う。

#### ○委員

若者や働く世代へのアプローチが大事。40歳代の自殺の割合も大きいが働いている世代で何か日中アプローチしようと思っても家にもいない。今までであればアプローチできないところではあったが、DX化・ICTを取り入れて働く世代にもアプローチできるという。

また、産後うつは女性だけではなく最近男性にもみられ、育児疲れで共倒れすることもある。家庭の中だけで完結し、孤立化の現状がある。そこにアプローチできるような交流が戻ってくれば良いと思う。子育て世代支えることが子ども・若者の自殺を防いでいくことにもなる。

### ○委員

もし相談があったときには、商工観光課とつなげることは可能と思う。ただ相談の中で助けることができるのかは、本人がそこを求めてないにしても少し難しいという感じはある。しかし、相談の中で感じた場合には、商工観光課と一緒に連携して他課の方の相談にのってもらえるような流れに持ち込んでいくのは、できるのかなと思う。

### ○委員

自殺対策＝精神保健分野という意識が根強いというような報告があった中で、20年近くの障害の分野、精神の分野に関わりながら実感として、近くで自死に対する危機のリスクに直面したことはほとんどない。ただ、関わっている人たちはほとんど福祉に繋がっていて見守られているからこそ安心感の中で暮らしている方たちが多かったり、リスクのある方はいても、その方達のどう生活を立て直すかということを、連携しながら歯止めをかけているというふうに実感している。繋がっていることが大事でそこを切り離さないように努めていくことも必要なことだと思う。

今後計画を策定していく中で、誰もがどこかにつながれるということが大事だと思うので、その相談窓口が明確はつきりとしているということや、ゲートキーパーの養成・普及啓発というところがはつきりと盛り込まれることが、とても重要と感じる。

### ○委員

直接的にその高齢者の自死について、話題になるような、或いはそれに接するような機会は本当に無いに近い。また、自死はイメージ的には独居の方のイメージでいた。高齢者みずから地域社会に顔を出してくれるような人であればそんなに深刻な状態にはならないと思う。我々も民生委員・地域の福祉委員会と交流機会を設けることや、相談に応じるような活動を進めている。

数値目標の件で実際サンプルの数など地域性によってのばらつきを勘案するとやはり国の目標値に準じた形で、取り入れていくことが妥当と思う。

### ○委員

精神保健に限らず、広くであった人をつなげるような視点が大事。保健所で言うと心の相談に来た方だけではなく、難病の医療費の助成の申請の受け付けで患者さんたちやご家族に合うような機会がある。そういったご家族の中でも話聞いて、大変な状況の世帯があったり、或いは感染症の家族の状況を聞き取るうちに、心配だなというような世帯にであったりする。そういったところは、必要な相談につなげるような視点でということで、職員も取り組んでいる。いろんなセクションごとの取り組みを進めることが、広く言うと、自死対策に繋がっていくと思う。

新しい計画の中で重点施策ということで、プロファイルに基づいて重点施策1高齢者、重点施策2生活困窮者ということだが、「高齢者への〇〇」という書き方にするように検討いただきたい。

### ○委員

児童生徒と教育という立場で絞って話すと、新しい基本政策の5で児童生徒のSOSの出し方に関する教育の、教育の推進や環境づくり体制整備という箇所、30数年教員やっているが、ここ数年リストカットをする児童生徒が本当に増えたと感じる。高学年になれば、普通におりその隠し方も分かっている。生と死のボーダーラインが曖昧になってきていると感じる。

SOSの出し方に関する教育となってくるとなかなか現場としては難しいなというのは正直なところ。今の教員自体が不足をしている状態で新卒の教員など指導方法や人間関係をどう作るかもまだわからないような教員に対する研修がまず必要になってくると感じる。実際にリストカットしているお子さんたちを見ると家庭環境や保護者の精神疾患、DVなど様々な背景が、見え隠れしていることが多い。

受けとめられる体制を整備するということでも、教員はどうしても心情的な部分で動くことが多く、その子が例えば「リストカットしたんだとか、屋上から飛びおりたらどうなのかな」と言うと、自分に対しては心を開いてくれてるからそう言ってくれている、他には言っちゃ駄目だよというような。変な正義感が働くことがある。そういう教員に対してまず違うということを指導していかなければならない。

## ○委員

消防としては助ける側なので各様々なところで救急講習、応急手当時に命の大切さを伝えていきたい。一番心配なのは統計を取ったところ令和4年の1月から8月までと、令和5年の1月から8月までの間で、消防本部の救急車で自損行為としての出動件数について、令和5年はかなり件数的に増えていること。一番多いのは薬を多く服用してしまうこと。消防からはなかなか発信できないが協力いただければ少なくなると思う。

## ○委員

消防と同じく警察も結局最後のとりでだと思う。自死の発生状況で件数では市外から来て亡くなれている方もいて、昨年12月と今年10月を照らし合わせると、昨年12月に追いつくような発生状況。発生については公園で車両で練炭で若者というのが目立つ。

名取市や岩沼市は駐車場や大きい公園が多いからだと思う。ハード面として公園管理、容易に入れないような方法を検討いただきたい。また練炭を購入するとしたら大体ホームセンターと思われるので、何かポスター貼ったりなど協力を求めるのが良いと思う。

岩沼署所管内に限らず、行方不明受理、その中で原因は自殺企図が多い。そういった場合警察では各携帯電話の会社に協力を求めたり、位置情報を確認したり、あらゆる手段を使って、なるべく早めに何とか自殺に追い込まないように活動している。インターネットの自殺予告も発見した場合にはプロバイダーの協力を得ている。

休日夜間の取り扱い相談も多く、なかなかホットラインへの電話相談も繋がらなくて警察にかけたという状況も少なくもない。人と人として話し合うことで対応している。また家族・知人から自殺企図ということで、通報を受けて救急の方で搬送する程度でもない場合は市役所に情報提供するので何とか支援とかにつなげて欲しい。

## ○委員

やはり同居している高齢者で自死が増えてきているということがショック。

また、社会福祉課で名取市ボランティア連絡会・地区福祉委員会と書いているが民生委員の場合は、今125名おり、9地区に分かれて活動している。地区の福祉委員会はその9地区の中で行われているが、その9地区すべてに福祉委員会があるというわけではない。福祉委員会の方も活動それぞれ違っている。閑上地区や西部地区に今福祉委員会は設けていない、やはり活動自体が違う。

それから困りごと相談会などいろいろ書いてあるが民生委員・児童委員、他に一応主任児童委員を入れて欲しい。私たちは地域によりいろいろな相談を受けている。適切な支援や行政、相談機関につながるように努めている。困りごと相談会というと、定期的に行っているように取られがちと思う。

生活安定支援事業は9地区の会長たちが交代で毎週火曜日10時から15時、福祉課から委託をされ生活相談を行っている。この生活相談の中で、生活に関わるものすべてのものに関しての相談を受けている。極端な例では墓を移動したい・墓をやめたいけどどうしたらいいかなど。

それから生活がすごく困っていて行政の方につなげた経緯もある。中には嫁姑の問題を1時間2時間近く話をし、気持ちをスカッとして帰っていく人もいる。こういった様々な相談が入っているので文面を変えて欲しい。ただ生活安定というと生活相談と生活に関する生活保護とそのお金に関するものが重点的にとられがち。実際には生活全般と子育て全般に関することの相談を受けている。

## ○会長

今の内容について、実情等を再度精査した上で、計画の方に反映していただきたい。地域の繋がり連携という視点でそれぞれの立場から本当にご意見をいただけたかと思う。

今回の計画はプロフィールに基づいて、作成に向けてということではやはり要因の解明が必要。水面下で見えない課題もあるというようにこのプロフィールの中からも読み取れる。病気や症状など早期発見で繋がって、対策を行うっていうところもちろんだが、誰も自殺に追い込まれることのない生き心地のよい地域社会という意味では、そもそもが、心豊かに育てる地域社会を育てていくところから、スタートしていくことが大切な視点と思う。

そのようなベースがあって皆様の方からの地域の中での満足度であったり生活の満足度の中で、課題などを洗い出しながら、そして何か心にモヤを抱えるようなときにはすぐに気づけるゲートキーパーの

存在がいてそこからさらに深刻化してきたような、本当にリストカットだったり表面化してきているような状況に関しては、きちんとした専門の方々に対応できるような体制を持つていくことが大切と思う。ぜひこの意見・視点をもとに、計画の策定に向けて動いていただきたい。

- 5 その他  
特になし。
- 6 閉会